



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R6年度 CS通信No.11 R6.12.12



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

舞戸小 3 学年児童が消防署見学(11/28)



舞戸小 3 学年児童が消防署を訪ね、施設・設備を見学したり、仕事の話を聞いたりしました。

施設・設備の見学では、実際に 119 番通報を体験し、ケガをしている人がいる場所、誰がケガをしているか、連絡先、通報した人の名前等を答えていました。



車庫には、消防自動車と救急車が待機していて、実際に車中に入って見学することができました。

この校外学習には、学級担任と支援員の他に、舞戸小担当の地域学校協働活動推進員の渋谷貴子さんが依頼した学校支援ボランティア 3 名が同行しました。

学校支援ボランティアの皆さんは、学校と消防署を往復する児童の安全確保をしたり、消防署内での児童の行動を見守ったりしていました。

児童は、この校外学習を通して人々の安全を守るために働く人の工夫や努力について学んだり、消防署の仕事と自分たちの生活との関わりを学んだりすることができました。

鯨ヶ沢中で「働く人との対話集会」(11/29)



鯨ヶ沢中学校第 2 学年生徒が、「働く人との対話集会」を体験しました。

今回は、白神山美水館、郵便局、CONVEY、鯨ヶ沢町社会福祉協議会、合同会社再びの町内 5 つの事業所から、5 名の講師をお招きし、どんな仕事をしているのか、この仕事を選んだ経緯や働くことの意義、喜び等を教えてもらいました。

この学習は、鯨ヶ沢町で小中一貫して進めているふるさと学習 5 本柱の一つ「どんな自分になりたいか」(キャリア教育)として行われています。

目的は、中学生と働く人との対話を通じて、仕事に対する興味関心を高めること、また、様々な職業の実態や魅力を知ることによって生徒たちが将来の職業選択に対する視野を広げ、将来の進路選択に役立てることです。



この日は、学校運営協議会委員もオブザーバーとして参加し、生徒の活動の様子を見守り、キャリア教育の研修をしました。

西海小で恒例の校内カルタ大会開催(12/10)



西海小学校では、ふるさと学習の一環として、全校で郷土カルタに取り組んでいます。

この日の校内カルタ大会は、日ごろの練習の成果を発表する日です。

校内カルタ大会には、読み手として、学校支援ボランティアの齊藤さん(どんぐりの会)が招かれ、学級代表対戦と全員対戦の読み手を務めました。

齊藤さんは、大きな声で、流暢に詠み進めていきました。

また、練習段階から学校を訪れ、読み手を引き受けていたので、子どもたちも札を取りやすそうでした。

この日の校内カルタ大会にはテレビ局や新聞社等たくさんの報道関係者が訪れ、至近距離から取材を重ねていました。

また、保護者や祖父母の皆さんもたくさん訪れ、全員対戦の時は、近くに歩み寄って応援していました。



学級代表対戦は、低学年、中学年、高学年に分かれ、1年対2年、3年対4年、5年対6年の対戦となります。下の学年が上の学年を破る対戦もありました。

高学年は、上の句を読んだだけで、下の句の取り札を取る子もいて、何年も続けている成果が出ていました。



全員対戦は、全校児童が体育館いっぱいに取り札を並べ、札を取り合うので、たいへん迫力がありました。

大会終了後、子どもたちは、「カルタを結構取れたのでうれしかったです。」(1年)

「学級代表になりたかったのですが、なれませんでした。3年生では代表になりたいです。」(2年)

「今日は負けたけど楽しかったです。」(3年)

「学級代表にはなれませんでした。全員対戦で勝てたので良かったです。」(4年)

「学級代表対戦で負けましたが、全員対戦で勝てて良かったです。」(5年)

「負けましたが、楽しくできました。」(6年)

と、感想を話していました。

川浪校長先生は、

「学級代表戦は、体育館がシーンとなり、皆さんの緊張感を感じました。

全員対戦は、全員がカルタを取るのので、迫力を感じました。

学級の予選会で悔し涙を流した子もいました。

その悔しさがエネルギーとなります。これからも頑張ってください。

カルタで鯉ヶ沢の歴史や文化を知ることができます。来年も再来年も続けていきましょう。」

と、全校児童に声をかけていました。

